「資産依存非対称的選択交際」仮説

－「玉の輿」の終焉・「逆玉」の存在？－

桜　井　芳　生

１．緒言

近年の日本社会が階層社会化しつつあるという認識がひろまっているようである。これ自体，安易に想定していい観測ではなく，慎重かつ周到に，検証されるべき認識であることはいうまでもない。ところで，社会の階層化が進行する場合には，現実にはそれぞれ独立ではないが，いくつかのキーポイントを指摘できるだろう。すなわち，教育上の階層化（上層階層は上層教育をし，下層階層は下層教育をし，教育階層間での流動性が低くなる），職業上の階層化（上層職業（逆もまた逆，以下同様）の子弟ほど，上層職業に就きやすくなり，職業階層間での流動性が低くなる），などである。

これにくわえて，婚姻上の階層化（上層階層の子弟ほど，上層階層の子弟と婚姻しやすくなり，婚姻上の階層間流動性が低くなる）も重要であることはいうまでもないだろう。

近年の日本社会における結婚と階層との関係は，まとめると以下のような知見がえられている。

・職業上の同類婚とでもいうべき傾向が見られる。すなわち，夫婦のそれぞれの父親の職業どうしをみても，夫婦それぞれの結婚時の職業をみても，職業カテゴリーの近いものどうしが結婚する傾向が見られる。
・夫の結婚時の職業と，妻の父親の主な職業とが，同様な近さをもつような傾向がみられる。

・夫の職業と妻の学歴との間に強い関係が確認される。（以上，SSM95 のデータにかんして。渡辺 1998:129）
・「女性は恋愛結婚で上昇婚を達成しやすい」ということはとくに見いだされない。
・結婚における女性の地位達成プロセスにおいて，依然として出身階層の影響が残されている。
・女性の結婚と職業との関連においては，同じ職業階層内での結びつきが強く，異なる職業階層の男性との結婚はせいぜい近接した範囲で行われているにすぎない。
・妻と夫との学歴の関連については，同じ学歴どうしの結びつきが非常に強く，異なる学歴の男性と結婚する機会は閉ざされている。
・この二点に関連して，岩間は，「夫と妻の初婚連関および学歴連関が非常に強いというこれらの知見は，結婚における女性の地位達成ルートにおいて，女性自身が高い地位を獲得することの重要性を示している」と述べる。（以上，1990 年札幌市のデータにおいて。岩間 1994:60）

以上のように，婚姻に関してはある程度の知見がえらえている。しかし，婚姻の前段階ともいえる，「交際」段階において，上記のような文脈での「階層」の影響が存在しているかどうかはほとんどしられていない。じっさいに交際（恋愛）中の双方（両人）を調べた調査はほとんど存在しないからだ。

例外として，赤澤 2001 の研究をみいだすことができた。短期大学および専門学校の学生を対象に 1998 年に，48 組のカップルについてのデータを得ている。しかし，この研究においては，せっかく，一組のカップルの双方（彼氏と彼女）から，データを収集しているのに，それを，一組のダイアドデータとしてまったく分析していない，という非常にもったいことをしている。そのため，以下筆者が分析するような，恋人同士の相関分析が全くなされていない。

われわれは，ごく小規模かつ簡便な調査であるにすぎないが，実際に交際

中の両人から調査票に回答をいただき，上記の問題意識からして，非常に興味深い知見をうることができた。

２．対象と方法

2005 年 6 月から 7 月にかけて，南九州のある国立大学法人の学生たちによって，周囲の学生を中心とする知人たちを対象にして，二段階スノーボール式非無作為抽出によるアンケート調査をおこなった。依頼数 209 ペア，回収数 149 ペア。回収率 71.3％であった。そのうち，第一段階回答者と第二段階回答者の関係が「恋人」（第二段階回答者による自己申告）であったペアは，39 ペアであった。この「恋人」ペアだけを以下分析する。

本稿で分析する設問ならびにその回答肢は以下のとおりである。

c お宅は, 不動産をおもちですか？（宅地･農地･分譲マンション, いずれも可）。
４．はい。　　３．いいえ。

p 女性・男性ともみなさんおこたえください。あなたは，うまれてからこれまで「ピアノのお稽古」を「通算何年」なさいましたか？。まったくないかたは「０年」とおこたえください。
約（　　）年

ck あなたのお宅の年収(税引き後＝手取り)は, だいたいいくらくらいですか？

cm あなたは，将来経済的豊かな暮らしができるとおもいますか？
６．かなり，そう。　５．まあ，そう。　４．どちらかというと，そう。
３．どちらかというと，そう，でない。　２．まあ，そう，でない。
１．かなり，そう，でない。

cl あなたは，美男・美女ですか？

cn あなたは，ご自身のことを「あたまがいい方」だとおもいますか？

co あなたの身長をおしえください。

（以下は，第二段階質問票のみの設問・回答肢）
ct あなたは，このアンケートを持参した学生さんにとって，何に当たる方ですか？。
↓
1．恋人。　２．友人。　３．それ以外。

３．結果

上記の質問への回答肢をおもに，ケンドールの順位相関係数によって分析した（回答肢が二値であるものを順位相関係数で分析することには大いに問題がある。が，他の二変数の組み合わせとならべる都合上，あくまで，方便として利用した。じっさいには，以下のように，このようなばあいにはクロス集計表を確認している）。

恋愛交際に関しては性差が大きく効いている（少なくともその可能性を忘却することはできない）。基本的に性別ごとに分析をおこなった。が，まずは，全数での分析を，述べる。

（以下男女とも）（この設問への欠損値により分析ケース数は減少している。）

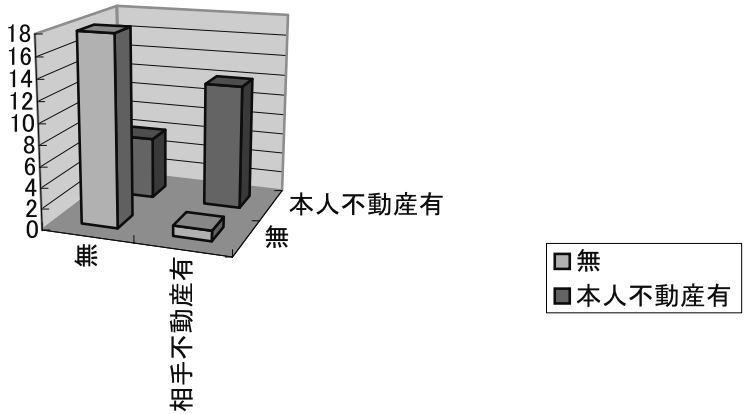
行変数が本人（第一回答者）への設問，列変数が相手（第二回答者）への設問，である（以下同様）。

相関係数

			dc 不動産
Kendall のﾀｳ b	c 不動産	相関係数	.643（**）
		有意確率（両側）	.000
		N	37

** 相関は，１％水準でで有意となります（両側）。

クロス集計ならびにグラフは以下のとおりである。



	無	相手不動産有
無	18	1
本人不動産有	6	12

２×２のクロス集計表なので，カイ自乗検定ならびに，オッズ比をもとめてみた。

ｶｲ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）	正確有意確率（両側）	正確有意確率（片側）
Pearson のｶｲ 2 乗	15.292（b）	1	.000		
連続修正（a）	12.716	1	.000		
尤度比	17.223	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	14.879	1	.000		
有効なｹｰｽの数	37				

a 2x2 表に対してのみ計算
b 0 ｾﾙ（.0%）は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 6.32 です。

	値	95% 信頼区間	
		下限	上限
c 不動産（3.00 / 4.00）のｵｯｽﾞ比	36.000	3.835	337.982
有効なｹｰｽの数	37		

このように，カイ自乗検定でも，相関の有意性を確認できる。

以上のように，不動産の所有非所有の関して，恋人同士の間でつよい相関をみてといることができる。

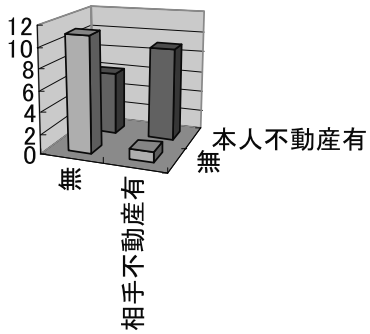
しかも，たんに相関しているのみならず，いわば，非対称的関係とでも言いうる関係もみいだせるだろう。すなわち，本人が不動産を所有している場合には，相手が不動産を所有しているかどうかは，いわば比率の問題である（約　２対１で，不動産所有）。たいして，本人が不動産を所有していない場合は，一ケースの以外は全員，相手も不動産非所有である。いわば，自分が不動産所有している場合は，相手の選択に権利（選択肢）があるのに，自分が不動産を所有していない場合は，相手の選択に権利（選択肢）がない，とたとえることができるかもしれない。

つぎに，本人が女性である場合にかぎって，結果をみてみよう。

相関係数

			dc 不動産
Kendall のﾀｳ b	c 不動産	相関係数	.532（**）
		有意確率（両側）	.007
		N	27

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。



	無	相手不動産有
無	11	1
本人不動産有	6	9

ｶｲ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）	正確有意確率（両側）	正確有意確率（片側）
Pearson のｶｲ 2 乗	7.631（b）	1	.006		
連続修正（a）	5.577	1	.018		
尤度比	8.520	1	.004		
Fisher の直接法				.014	.007
線型と線型による連関	7.349	1	.007		
有効なｹｰｽの数	27				

a 2x2 表に対してのみ計算
b 1 ｾﾙ（25.0%）は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 4.44 です。

リスク推定

	値	95% 信頼区間	
		下限	上限
c 不動産（3.00/4.00）のオッズ比	16.500	1.666	163.423
コーホート dc 不動産 ＝ 3.00 に対して	2.292	1.205	4.358
コーホート dc 不動産 ＝ 4.00 に対して	.139	.020	.949
有効なケースの数	27		

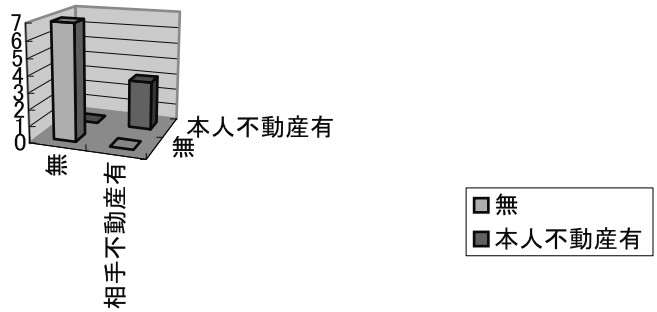
上からわかるように，女性においては，前記の全体における傾向と同様の傾向がみいだせる。

つぎに本人が男性の場合を分析する。

相関係数

			dc 不動産
Kendall のﾀｳ b	c 不動産	相関係数	1.000（**）
		有意確率（両側）	.
		N	10

** 相関は，1％水準でで有意となります（両側）。



	無	相手不動産有
無	7	0
本人不動産有	0	3

ｶｲ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）	正確有意確率（両側）	正確有意確率（片側）
Pearson のｶｲ 2 乗	10.000（b）	1	.002		
連続修正（a）	5.805	1	.016		
尤度比	12.217	1	.000		
Fisher の直接法				.008	.008
線型と線型による連関	9.000	1	.003		
有効なｹｰｽの数	10				

a 2x2 表に対してのみ計算
b 4 ｾﾙ（100.0%）は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .90 です。

サンプル数がすくない点に注意をわすれてはならないが，男性においては，完全相関になっている。

以上，全体，ならびに，男女別に分析してみた。すでに，「対象と方法」の節で述べたとおり，本調査は，二段階スノーボール式のものであった。すなわち，第一調査対象者が，（このサンプルにおいては）「自分の恋人」を第二調査対象者として，第二階のアンケートをおねがいするのであった。

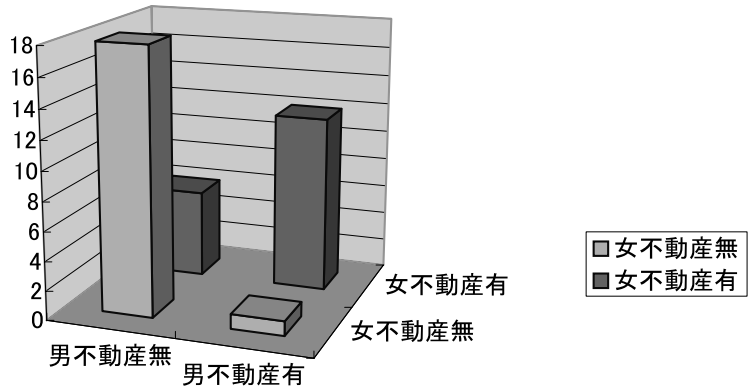
この「依頼過程」が，第二調査対象者の回答になんらかのバイアスをもたらしていないか，また，この依頼者選択がサンプリングバイアスをもたらしていないか，については，スノーボール調査に付き物の疑念であり，わすれてはならないだろう。しかし，一つの「仮定」として，この二つのバイアスが無視できるとかんがえることもできるだろう。もし，本調査で，この二つバイアスが無視できるのだとしたら，回答者が「本人（第一調査対象者）」であるのか，「相手（第二調査対象者）」であるのかは，無視することができるだろう。恋愛について，調査しているので，本人の性別は非常に関心の引く属性といえるだろう。このように考えて，あくまで，一つの試みとして，「本人」「相手」の立場を無視して，性別のみに着目して，うえと同様な分析をしてみた。以下の結果をえた。

以下の変数は，「ｃ不動産」が「女性側（彼女側）」が不動産をもっているかどうか，であり，「dc 不動産」は「男性側（彼氏側）」が不動産をもっているかどうか，を示している。

相関係数

			dc 不動産
Kendall のﾀｳ b	c 不動産	相関係数	.643（**）
		有意確率（両側）	.000
		N	37

** 相関は，１％水準でで有意となります（両側）。



	男不動産無	男不動産有
女不動産無	18	1
女不動産有	6	12

ｶｲ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）	正確有意確率（両側）	正確有意確率（片側）
Pearson のｶｲ２乗	15.292（b）	1	.000		
連続修正（a）	12.716	1	.000		
尤度比	17.223	1	.000		
Fisher の直接法				.000	.000
線型と線型による連関	14.879	1	.000		
有効なｹｰｽの数	37				

a 2x2 表に対してのみ計算
b 0 ｾﾙ（.0%）は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 6.32 です。

	値	95% 信頼区間	
		下限	上限
c 不動産（3.00 / 4.00）のｵｯｽﾞ比	36.000	3.835	337.982
有効なｹｰｽの数	37		

結果的に全体でのクロス集計と全くおなじ数値分布となっている。したがって，全体のところで，指摘したことがここでも指摘できるだろう。しかも，これは，恋愛における性別をめぐる非対称性なので，さらに興味深いとおもわれる。すなわち，女性側が不動産を所有している場合には，相手（男）が不動産を所有しているかどうかは，いわば比率の問題である（約　２対１で，不動産所有）。たいして，女性が不動産を所有していない場合は，一ケースの以外は全員，相手（男）も不動産非所有である。いわば，女性が不動産所有している場合は，相手の選択に権利（選択肢）があるのに，女性が不動産を所有していない場合は，相手の選択に権利（選択肢）がない，とたとえることができるかもしれない。他方，男性が不動産をもっている場合は，一ケースをのぞいて，相手（女性）も不動産をもっている。一方，男性が不動産をもっていない場合は，もちろん，比率的には，相手も不動産をもっていないが，約２対１で，不動産所有の女性と恋愛する割合も存在する。

コトバは悪いが，直観的にわかるようにまとめてしまえば，「逆玉はありうるが，玉の輿は，ほとんど存在しない」ということができるだろう。

以上は，本人の不動産所有と相手の不動産所有という同じ変数同士の関係であった。では，類似して，資産･経済的富裕･その他にかんして，「別な変数」同士もふくめて興味深い相関はないかみてみよう。

まず，男女こみで分析する。以上に関連した線で，興味深い相関は，以下のものがあげられる。行変数が「本人」であり，列変数が「相手」を示す。

相関係数

			gm 将来経豊
Kendall のﾀｳb	cm 将来経豊	相関係数	.528（**）
		有意確率（両側）	.000
		N	39

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人が自分の将来を経済的に豊かに暮らせると考えているほど，その相手も自分を同様に考えている。

相関係数

			gm 将来経豊
Kendall のﾀｳb	ck 宅年収	相関係数	.420（**）
		有意確率（両側）	.002
		N	35

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人の自宅の年収が高いほど，相手は自分のことを将来経済的に豊かに暮らせると考えている。

相関係数

			gn 頭いい
Kendall のﾀｳb	ck 宅年収	相関係数	.279（*）
		有意確率（両側）	.035
		N	35

* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人の自宅の年収が高いほど，その相手は自分のことを頭がいいと考えている。

相関係数

			gl 美人
Kendall のﾀｳb	cn 頭いい	相関係数	.284（*）
		有意確率（両側）	.029
		N	39

* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人が自分のことを頭がいいと考えているほど，相手は自分ことを美人（美男・美女）と考えている。

相関係数

			gn 頭いい
Kendall のﾀｳb	cm 将来経豊	相関係数	.306（*）
		有意確率（両側）	.024
		N	39

* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人が自分のことを将来経済的に豊かに暮らせると考えているほど，その相手は自分のことを頭がいいと考えている。

次に本人側が女性の場合のみ分析する。同様に興味深い相関として，以下があげられる。

相関係数

			gm 将来経豊
Kendall のﾀｳb	cm 将来経豊	相関係数	.526（**）
		有意確率（両側）	.001
		N	28

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人女性が自分のことを将来経済的に豊かに暮らせる，とおもっているほど，相手男性も自分のことを同様に思っている。この相関に関しては，先述の「回答順位」を無視し，「女＝本人→男＝相手」としての分析でも全く同様に，有意な相関を示している。

相関係数

			gm 将来経豊
Kendall のﾀｳb	ck 宅年収	相関係数	.403（**）
		有意確率（両側）	.010
		N	26

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人女性の自宅年収がたかいほど，その相手男性はじぶんのことを将来経済的に豊かに暮らせるとおもっている。この相関に関しても，先述の「回答順位」を無視し，「女＝本人→男＝相手」としての分析でも全く同様に，有意な相関を示している。

相関係数

			gn 頭いい
Kendall のﾀｳb	cm 将来経豊	相関係数	.339（*）
		有意確率（両側）	.035
		N	28

* 相関は，5％水準でで有意となります（両側）。

すなわち，本人女性が自分のことを将来経済的に豊かに暮らせると考えているほど，相手男性は自分のことを頭いいと考えている。この相関に関しても，先述の「回答順位」を無視し，「女＝本人→男＝相手」としての分析でも全く同様に，有意な相関を示している。

さらに，元のデータでは，有意な相関とならなかったが，「回答順位無視」のデータで，「女：ピアノやっていた年数」「女：美人」「男：自宅年収」「男：将来経済的に豊」「男：自分は頭がいい」の諸変数の間に以下のような有意な

相関がみいだされた。

相関係数

			dp 女：ピアノ年	c 女：l 美人	gk 男：宅年収	gm 男：将来経豊	gn 男：頭いい
Kendall のタウb	dp 女：ピアノ年	相関係数	1.000	-.066	.388（**）	.334（*）	.224
		有意確率（両側）	.	.629	.008	.017	.101
		N	39	39	31	39	39
	cl 女：美人	相関係数	-.066	1.000	.036	.199	.295（*）
		有意確率（両側）	.629	.	.803	.143	.027
		N	39	39	31	39	39
	gk 男：宅年収	相関係数	.388（**）	.036	1.000	.194	.160
		有意確率（両側）	.008	.803	.	.179	.260
		N	31	31	31	31	31
	gm 男：将来経豊	相関係数	.334（*）	.199	.194	1.000	.226
		有意確率（両側）	.017	.143	.179	.	.095
		N	39	39	31	39	39
	gn 男：頭いい	相関係数	.224	.295（*）	.160	.226	1.000
		有意確率（両側）	.101	.027	.260	.095	.
		N	39	39	31	39	39

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。
* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

また女性の「co 身長」と，男性の「go 身長」との間のピアソンの相関係数は以下のとおりである。

相関係数

		go 身長
co 身長	Pearson の相関係数	-.394（*）
	有意確率（両側）	.013
	N	39

* 相関係数は５％ 水準で有意（両側）です。

すなわち，「ピアノをやっている年数が長い」女性ほど，「宅年収」がたかく「将来経済的に豊になるとかんがえ」「自分のことを頭がいい」と考えている男性とつきあっている。また，自分のことを「美人」とかんがえている女性ほど，相手男性は自分ことを「頭がいい」と考えている。

さらに，身長の高い男性ほど，身長の低い女性と恋愛している。

以下本人が男性のケースのみ分析にかんして，興味深い相関をあげてみる。

相関係数

		gk 宅年収
ck 宅年収	Pearson の相関係数	.692（*）
	有意確率（両側）	.039
	N	9

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

すなわち，男性本人の自宅年収が高い（低い）ほど，その恋人女性の自宅年収も高い（低い）。

相関係数

			gj 経豊
Kendall のﾀｳ b	c 不動産	相関係数	.660（*）
		有意確率（両側）	.038
		N	10

* 相関は，５％ 水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人男性が不動産をもっているほど，相手女性は自分を経済的に豊かな方と考えている。

相関係数

			gk 宅年収
Kendall のﾀｳb	cj 経豊	相関係数	.605（*）
		有意確率（両側）	.036
		N	9

* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

すなわち，本人男性が自分のことを経済的に豊かと考えているほど，相手女性の自分の自宅年収は高い。

相関係数

			gm 将来経豊
Kendall のﾀｳb	ck 宅年収	相関係数	.605（*）
		有意確率（両側）	.041
		N	9

* 相関は，5％水準で有意となります（両側）。

すなわち，男性本人の自宅年収が大きいほど，その相手女性は自分のことを将来経済的に豊かに暮らせると考えている。

４．議論

個々の論点について議論するまえに，全般的に本調査結果に読者がもちうる疑義について，議論しておいておきたい。すなわち，「恋人同士，同じ質問項目で，相関をとれば，似ている（正の相関がでる）のはあたりまえではないか。恋人は似たもの同士である場合がおおいのだから」という疑義である。

たしかに，全般的に同じ質問項目で同様に回答する傾向はあるようだ。多

くの「同じ質問同士の組み合わせ」で弱い正の相関が見られることが多かった。

しかし，今回の調査においては，全データのうちで，「恋人同士」のペアがあまりおおくなかったこともあり，有意性検定をクリアする相関はほとんどなかった。上記で紹介した質問組の相関は，（そう，明記しているかぎり）数少ない有意性検定をクリアした比較的強い相関なのである。したがって，一般に「恋人同士似たもの効果」とでも呼ぶべき効果があって，それが上記の相関に何らかの程度きいていたということは「否定はできない」，が，「それだけで，上記の相関の強さをすべて説明することは，できない」とおもわれる。

われわれが得た知見は，おもに以下の数点にまとめることができる。すなわち，

1．経済的有利さの高低に対応するような形で，とくの「不動産所有の有無」をめぐって，男女間の交際は，流動性の低い状況をしめしている。すなわち，交際中の両人は，不動産の所有に関する正の相関がつよい。（資産依存性）

2．しかし，この正の相関は以下のべるような意味で，「非対称的」である。すなわち，不動産をもっていない本人は，同様に不動産をもっていない相手と交際する傾向が強いのである。が，他方，不動産を持っている本人は，不動産をもっている相手と交際する傾向を有するがそれは前者ほどではない。単純化していえば「不動産をもっていない本人は，不動産をもっていない恋人としかつきあえない。が，不動産をもっている本人は，不動産をもっている恋人・持っていない恋人，双方と，つきあうことができる」といえる。（選択の非対称性）

3．さらに，この選択の非対称性は，性差に多く影響される。すなわち，本人が女性である場合には，この選択の非対称性がみられる。すなわち，この場合，（本人の）相手の男性の視点にたてば，たとえ自分が不動産をもっていなくても，不動産をもっている女性と交際できる可能

性が残っている。(「逆玉」可能性)。

4．ところが，本人が男性の場合には，ごく少数のデータであるので一般化にかんしては慎重になるべきだが，少なくとも今回観測されたデータ上からは，このような非対称性は消滅する。すなわち，不動産を所有している本人男性の恋人は，「全員」不動産持ちの女性であり，不動産を所有していない本人男性の恋人は，「全員」不動産なしの女性であった。相手の女性の視点にたてば，自分が不動産なしであったとすると，不動産持ちの男性と交際できる可能性はないことになる。(「玉の輿」の非存在？)。

5．さらに，上述の「回答順番を捨象した」分析においても，この「３」「４」の性差をめぐる傾向は再確認できる。すなわち，女性側が不動産を所有している場合には，相手（男）が不動産を所有しているかどうかは，いわば比率の問題である（約　２対１で，不動産所有)。それにたいして，女性が不動産を所有していない場合は，一ケースの以外は全員，相手（相手）も不動産非所有である。いわば，女性が不動産所有している場合は，相手の選択に権利（選択肢）があるのに，女性が不動産を所有していない場合は，相手の選択に権利（選択肢）がない，といえる。他方，男性が不動産をもっている場合は，一ケースをのぞいて，相手（女性）も不動産をもっている。一方，男性が不動産をもっていない場合は，もちろん，比率的には，相手も不動産をもっていないが，約２対１で，不動産所有の女性と恋愛する割合も存在する。「逆玉はありうるが，玉の輿はほとんど存在しない」ということができる。

6．さらに，この「回答順番を捨象した」分析を中心に，男女間でことなった変数どうしに興味深い相関がいくつかみいだされた。たとえば，「ピアノをやっている年数が長い」女性ほど，「宅年収」がたかく「将来経済的に豊になるとかんがえ」「自分のことを頭がいい」と考えている男性とつきあっている。自分のことを「美人」とかんがえている女性ほど，相手男性は自分ことを「頭がいい」と考えている。身長の高い男性ほど，

身長の低い女性と恋愛している。

以上が,本調査のこの視点に関する主な知見である。くりかえすが,小規模・簡易な調査であるがゆえに，ここでの知見を一般化するのは非常に危険である。しかし，今後大規模・本格的な調査をめざすうえで，非常に興味深い仮説となると考える。

さらに，今後の課題もふくめて，いくつか，付言しておきたい。

第一は,「非ランダムサンプリング」「小規模サンプル」の「ほとんど不可避」性である。上記のように,筆者は,本研究の「非ランダムサンプリング」性・「サンプル数の少数」性による制約をつよく自覚しているつもりである。しかし，だからといって，本研究の存在意義がなくなるとも考えない。本研究のような「じっさいに今つきあっている，恋人どうし」が，いかなる状態であるのかに関心をもつ調査には，この二つの制約はほとんどつきものであると，かんがえるからだ。たとえば,ランダムサンプリングに固執するとして,「今じっさいにつきあっている恋人どうし」の「母集団」をいかにして設定できようか？。本調査と同様な「実際につきあっている恋人どうし」を調査したほとんど唯一の先行研究である中澤 2001 でさえ，採集できたデータは４８組のそれでしかない。われわれは，得られたサンプル数がたとえ多数でなくても，それはそれとして，漸進的に知見をつみかさねていくしかない，と考えている。

第二は，恋愛についての実証調査の重要性である。現代の若者にとって，恋愛は，日常を暮らしていく上での非常におおきなトピックである。彼らの生き甲斐・ライフプランニング・価値観などに大きく，相互影響しているだろう。すくなくとも,「そうである」とする仮説は棄却できない。だとしたら，ランダムサンプリング・大規模サンプリングが困難であっても，まずは収集しうるデータ規模から漸進的に研究を進展させていくべきだろう。

第三は，ダイアドデータ（ペアデータ）の重要性である。個人調査においても「今，恋愛しているか」を聞くことは可能である。また，階層調査など

で「配偶者についての諸属性」を聞くことも可能である（すでになされている）。しかし,「婚姻以前」の恋愛段階では,実際につきあっている当人（相手）に聞いてみないとたしかなことはわからない。上記の無作為性・多量性についての制約が大きいにも関わらず，ダイアドデータの収集に固執した所以である。

第四に，階層化・婚姻問題との関連である。昨今日本社会では，階層化や，晩婚・少子化などが，頻繁に議論されている。婚姻以後のデータについてはある程度存在する。しかし，それにいたる過程としての恋愛がいかになされているかについての実証的データはあまり存在しない。

とくに，本調査で，見いだされた，恋人同士の「不動産の所有の有無」についての相関の大きさは，筆者にはショッキングな知見であった。婚姻における階層化があるとして，その前段階としての恋愛において，階層化が存在するのか（本調査からは存在しそうだ）。存在するとしたら，当人たちは，なにを目印にして，お互いを選択しあっているのか（これは，本調査によって開示された大きな問題である）。これらを今後も探求していきたい。

第五に，非社会学的変数を排除しないこと，である。本稿をよまれた社会学徒のなかには，あつかわれた変数・設問に違和感をもたれたかたもいただろう。すなわち，頭のよさ，美人，身長などといった，非社会経済的変数が登場していたからである。これらの変数が，本調査にはいっていたのは，ひとつには学生とともにおこなったいわゆるオムニバス調査（あいのり調査）であったことによる。一人の研究者の問題意識とは関係ない変数・設問がひとつの調査票に同居し，分析するさいに，それらの変数が「予期せざる」相関を他の変数と示す場合がある。しかし，それだけではなく，なかば意図して，これらの非社会経済的変数を調査票にいれてみたということもある。筆者の予想するところ，恋愛とは，他者にとって高く・低く評価される資源をたがいに示しつつ，より自分のとって価値のある相手を選択する，そのような相手から自分を選択してもらう，ゲームでもあるとおもう。その際，いわゆる社会経済的変数のみならず，おけいこごとなどの文化的資本，知能など

文化・生得的資源，容姿などの生得的（整形によれば後天的）資源，などによる，相互選択ゲームであるだろう。その際，社会経済的変数と，他の諸変数が，トレードオフ関係にあったりするだろう。すくなくとも，経験的に反証されるまでは，そう仮定することは知的に生産的である。これまで，社会学者はこれら非社会経済的変数にたいしてあまりに看過してきたのではないか。このような反省からも，私は今後も，社会経済的変数･非社会経済的変数，双方を混在させた調査研究をおこなっていきたい。

５．他の調査との対照的関係について
－恋愛は資産に依存し，交友は収入に依存する !? －

本稿で得られた知見にかんしては，さらに少なくとももう一点コメントすべきことが存在する。それは，我々自身によっておこなわれた別の調査結果との，比較対照である。日本人の交友関係について実証的に分析した研究はないことはない。しかし，「友人」の「双方」からデータをとった調査はほとんど知られていない。われわれは，本稿の調査と同様に「あいのり」調査（オムニバス調査）ではあったが，桜井 2007 において，現実の「いま交友している友人たち（同性）」同士からデータを採集することができた。いまだ「探索的」段階ではあるが，非常に興味深い知見をうることができた。おもに，二点指摘できる。第一は，「友人同士」における「親の収入の類似」である。この現象を，「「収入」依存選択的「交友」仮説」と呼ぼう。

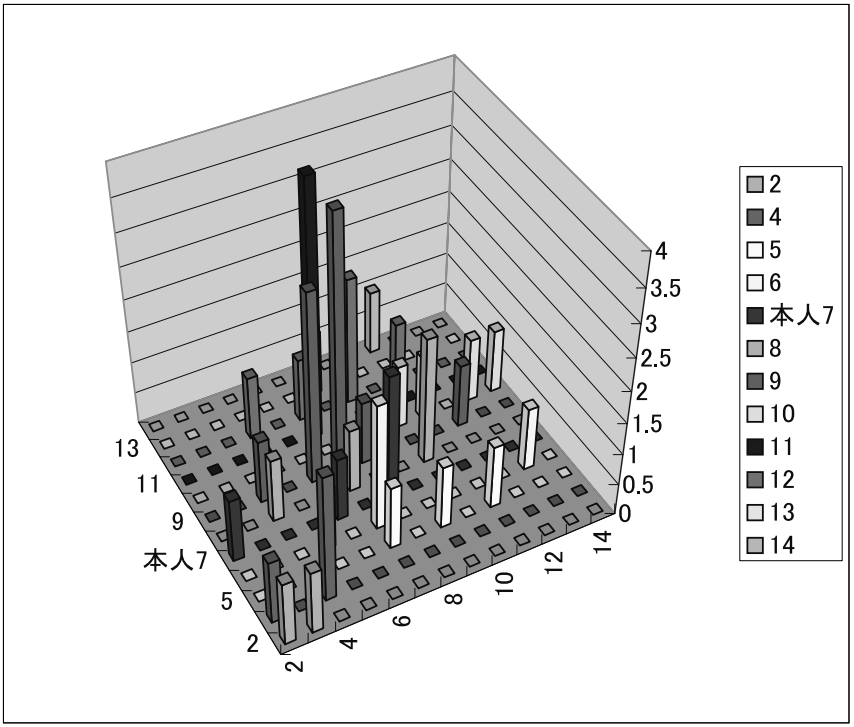
桜井 2007 において，報告したように，**本人（変数「dd 年収」）とその友人（変数「dd2 年収」）における，「家庭の収入」ついては，以下ように，かなり大きな類似性（相関）を示している（下表）**（設問ならびにその回答肢については，文末**【註】**，参照）。

相関係数

			dd2 年収
Kendall のﾀｳ b	dd 年収	相関係数	.305（**）
		有意確率（両側）	.007
		N	45

** 相関は，1％水準で有意となります（両側）。

分布表を三次元グラフにしてみたのが，以下である。正の相関をしている具合が分かるだろう（下グラフ）。



われわれは，本稿の調査で，「恋愛中の両人」からのデータ収集を行い，そこにおいて，一見似てはいるが，異なった現象を見いだしたのであった。すなわち，「交際中の恋人同士」は，その双方の家計の「不動産の所有の有無」が類似していたのであった。この現象を，「「資産」依存選択的「交際」仮説」

と呼んだ。「交友」はおもに同性の友人関係を，「交際」は恋愛関係を示すとする。以上の「交友←→収入依存」「交際←→資産依存」の対照的関係は，非常に興味深い。いわば，「（男女）交際は，ストックに」，「（同性友人）交友は，フローに」影響されていたのである。まずは，この知見の再試が要請されるだろう。順当にも，この知見が再試確認された暁には，この傾向性が何故生じるのかについての理論的説明が必要となるだろう。筆者の依拠するグランドセオリーは，ダーウィン生物進化論である。後者の視点からもこの現象を説明する仮説を提起することができるだろう。

別稿桜井 2007 において得られた第二の知見は，「恋愛しているのに，性交渉をしていない」度合の，友人同士における類似である。少なくとも自己申告のアンケートから見る限り，恋愛をしていても性交渉していないカップルはある程度存在する。ただし，恋愛期間に依存するので，この恋人たちがずっとセックスレスであるとはがんがえるべきではない。友人たち同士は，この「恋愛しながらも未性交渉である」度合が，類似しているのである。ただし，この相関は，「年齢」で統制すると有意性をなくしてしまった。今後の大規模な調査が待たれる。この「恋愛しながらも末性交渉である」度合は，年齢以外にも，いくつかの変数から影響を受けている。もっとも注目されるのは，「経済的豊かさ」である。自己を「経済的に豊か」と感じている若者ほど，「恋愛しながらも未性交渉」である比率が高い。経済的格差の進行が云々される今日，この知見は非常に興味深い。

残念ながら，この「恋愛交際しつつも，未だ性交渉がない（/ ある）」という点にかんしては，本稿調査では分析できなかった。しかし，本稿で見出された資産所有による恋愛交際への関係がこの点にかんして全く影響していないとは，先験的にはいえないだろう。今後の精査を期したいと思う。

【註】

桜井 2007 において報告した調査での，「収入」に関する設問ならびにその回答肢は以下のとおりである。

「過去一年間のお宅（生計をともにしている家族）の収入は税込みで次の中のどれに近いですか。ほかのご家族の方の収入も含めてお答えください。dd

1　（ア）なし
2　（イ）70 万円未満
3　（ウ）100 万円位（70 ～ 150 万円未満）
4　（エ）200 万円位（150 ～ 250 万円未満）
5　（オ）300 万円位（250 ～ 350 万円未満）
6　（カ）400 万円位（350 ～ 450 万円未満）
7　（キ）500 万円位（450 ～ 550 万円未満）
8　（ク）600 万円位（550 ～ 650 万円未満）
9　（ケ）700 万円位（650 ～ 750 万円未満）
10　（コ）800 万円位（750 ～ 850 万円未満）
11　（サ）900 万円位（850 ～ 1,000 万円未満）
12　（シ）1,100 万円位（1,000 ～ 1,200 万円未満）
13　（ス）1,300 万円位（1,200 ～ 1,400 万円未満）
14　（セ）1,500 万円位（1,400 ～ 1,600 万円未満）
15　（ソ）1,700 万円位（1,600 ～ 1,850 万円未満）
16　（タ）2,000 万円位（1,850 ～ 2,300 万円未満）
17　（チ）2,300 万円以上（記入　約　　万円）　」

【謝辞】本調査にご協力・ご回答いただいたインフォーマントのみなさんに深く感謝します。また，ともに調査したみなさんに感謝します。

【参考文献】

赤澤　淳子　2001 「恋愛の進展にともなう性別役割と恋愛意識の変化：カップルの横断的調査に基づいて」『家族研究論叢』第 7 巻　奈良女子大学

Hendrick, Susan　1992 “Romantic love” =2000　奥田　大三　訳 『「恋愛学」講義 』金子書房

日暮　高則　1989 『「むら」と「おれ」の国際結婚学』 情報企画出版

岩間　暁子　1994 「（第三章）現代女性の結婚による地位達成」『現代の社会階層と社会意識』白倉幸男編　社会移動研究会

片岡 栄美　1998「地位形成に及ぼす読書文化と芸術文化の効果：教育・職業・結婚における文化資本の転換効果と収益」『文化と社会階層』1995 年 SSM 調査シリーズ Vol. 18　1995 年 SSM 調査研究会

加藤　彰彦　2001 「未婚化・社会階層・経済成長」『家族社会学研究』第 13 巻第 1 号　家族社会学会

北村　行伸　2002 「結婚の経済学」http://home.hiroshima-u.ac.jp/jeaPP2002/summary_html/KITAMURAyukinobu.PDF#search=%22%E5%8C%97%E6%9D%91%E8%A1%8C%E4%BC%B8%E3%80%80%E7%B5%90%E5%A9%9A%E3%81%AE%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6%22

日本経済新聞　2006 「結婚ブログのミスマッチ」『日本経済新聞』2006 年 1 月 31 日号　日本経済新聞社

オーエムエムジー　2005 『「結婚学」白書：ことぶき科学情報 2000-2005：大人になることが喜びとなる社会へのシフトをめざして 』オーエムエムジー

桜井 芳生 2007「「収入」依存選択的「交友」仮説・「未セックス恋愛」と経済階層性 - 現代学生「交友」（／交際）関係についての，探索的実証研究 -」鹿児島大学法文学部紀要『人文学科論集』第 66 号

渡辺 秀樹 1998「結婚と階層の趨勢分析」『階層と結婚・家族』1995 年 SSM 調査シリーズ Vol. 15　1995 年 SSM 調査研究会

山田　昌弘　1996a 『現代日本フツーの恋愛』ディスカヴァー・トゥエンティワン

山田　昌弘　1996b 『結婚の社会学：未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善

八代　尚宏　1998 『結婚の経済学：結婚とは人生における最大の投資』 二見書房